令和 5 年 10 月 16 日

デジタル技術の活用及び DX 推進の取り組み状況

ヒロどうぶつ病院

1.　デジタル技術の重要性

デジタル技術の活用は、顧客満足度を向上させ、当社の競争力に対し好影響を及ぼす非常に重要な要素だと考えています。
具体的には以下の 3 点より、競合優位性が高まります。

A)　労働生産性の向上
従来のエコーを用いた手術では、術中の検査ごとに腹腔鏡の鉗子を抜いて検査を行っておりました。しかし最新のエコーを導入することで鉗子を抜かずにそのまま検査できるようになり、人力に頼るプロセスを省略できます。
さらに、従来の超音波診断機（以下エコー）においては術中プローブが存在せず、術中に経皮的にエコープローブを当てて患部を観察するしかありませんでした。
しかし最新のエコーを導入することで極小の術中プローブを導入しこの術中プローブを使用することで開腹手術はもとより腹腔鏡下手術においても肝臓などの臓器に直接プローブを当てることにより精彩なエコー画像をリアルタイムで見ることが可能となり腫瘍や血管の位置の確認等が容易に正確に可能となります。
従来のように経皮的に行うエコー検査では術者以外の獣医師が経皮的に行うエコー検査とは異なり術者自身が術中プローブを用いエコー検査を行うことで人力に頼るプロセスを省略できます。以上のような最新のデジタル技術を活用することによって院内の生産労働制を向上させます

B)　見える化の推進
最新のエコーARIETTA 750SE によって患畜の肝臓腫瘍についての飼い主様の理解をより深くしていただけるようになります。より理解をして頂いた上での治療を進めることで、インフォームドコンセントを徹底します。

C)　安全性の向上
医療現場において、安全性を向上させ医療ミスの可能性を極限まで低くすることは、レピュテーションリスクを低減するためにも非常に重要です。デジタル技術により肝臓腫瘍の再発や転移を防ぎ、生検する場所がずれることがないという安全性を得ることができます・

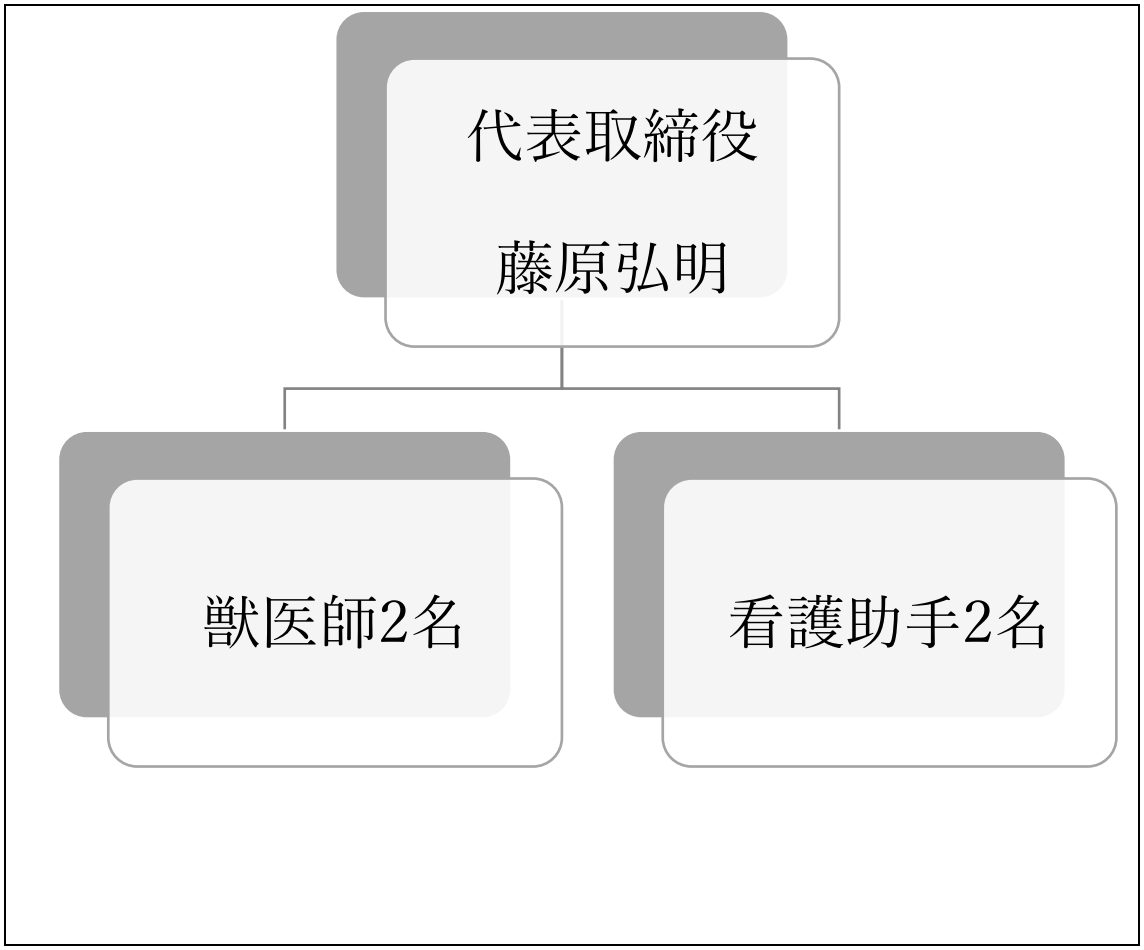
2.　上記を踏まえた弊社の経営ビジョン

「デジタル技術を十分に活用して、高度な肝臓腫瘍治療を提供する次のステップの動物病院へ」

当院は本事業を通じて肝臓腫瘍疾患に特化した検査機器を導入しますこれらの検査機器には高度なデジタル機能が搭載されており、高度な医療を提供します。デジタル技術の活用により患畜、飼い主様にとって多くのメリットを持つだけでなく、顧客満足度が劇的に向上するため患者数が増加し、弊社の経営面に多大な好影響を与えます。

令和 5 年 10 月 16 日

3.　当社の経営ビジョンの実現のための戦略

- 肝臓腫瘍の治療以外にも今後常にデジタル化を検討する
- 当院全体のデジタルリテラシーを強化する教育
- デジタル活用機材のリサーチ

4.　戦略推進のための組織体制